

どう伝える？

命を守り輝かせるための 性のお話

日 時：令和5年6月10日（土）10時～12時
場 所：大歳地域交流センター
講 師：高石 清美 氏
（山口赤十字病院 産婦人科 婦人腫瘍科部長）
受講生：大人 25人



家庭で子どもに性教育を伝えるコツや、大人が正しい性の知識をもつこと、正しい判断をすることの大切さを学びました。幼少期からプライベートゾーンを教えるなど、家での正しい性教育は、健康な生活の実現に向けたものであり、子どもが安心して話のできる親子関係を築くことは、深刻な性の問題の予防につながります。また、子宮頸がんや子宮体がんの予防や検診についても、詳しくお話を伺いました。命を大切にすることは正しい知識をもつことからだということが大変勉強になりました。

性被害での相談は日常に多数存在している

将来「性」で悲しい思いをしないために
思春期（8歳から18歳）に
正しい知識をもつことが大事。
ネットやAVの情報→支配的なものが多い



家庭における性教育

〈時期〉 性教育が早いと心配？ → 正しい知識を早くに知ることによって慎重になれる。
正しい知識をきちんと得ることで将来の人権にまで影響がある。

〈タイミング〉 日常の中で性教育について話す

〈コツ〉 性についての親子の対話

- ・話すときは、淡々と事実を伝える・自分の言葉で話す・ポジティブに考える
- ・否定しない

例えば・・・「赤ちゃんはどうしてできるの？」▶ 男女の体の違いから伝える

家庭での性教育は健康な生活の実現に向かうためのもの



理想

子どもにとって
親が安心してSOS出せる身近な大人であること

そして**まずは保護者自身を知ることも大切**

- ・プライベートパーツについて知る
- ・深刻な問題にならないための身の守り方を教える

NO いやな時ははっきりと断る

GO 逃げる

TELL 信頼できる大人に話す



子どもに尋ねられた時に困らないように自分が正しく知ることが大切

▼妊娠・中絶について

- ・中絶件数・・20歳以下での件数多い
- ・望まない妊娠を避ける方法・・避妊
↳ 子どもも親も悩む
- ・生んで育てられるようになるまで性交渉しない
- ・避妊するのは女性も男性も両方



**避妊は女性だけの問題ではなく
相手に対して
優しさをもつことがとても重要**

低用量ピル 月経痛の軽減や月経量の改善等

緊急避妊ピル ・・女性の心を守る。(病院受診すること)

妊娠したかもしれないときに72時間以内に服用のこと。※中絶のための薬ではない

▼子宮頸がんとHPVワクチンについて

- ・8割の女性が感染の可能性。(女性だけの問題ではない!)
- ・近年、患者数、死亡者数が増加傾向



一次予防・・より早いHPVワクチンで予防

子宮頸がんのリスク回避

二次予防・・より早い定期検診で早急な治療

※ワクチンの副作用副反応については安全性が確認されている。

【まとめ】



子どもにきちんと伝えましょう!



- 性についての正しい知識は慎重な性行動そして「幸せ」につながる性行動を生み出す
- プライベートパーツは大切な体の部分であること
- いやなことは拒否して逃げる、そして信頼できる大人に話すこと
- 月経発来した(初潮を迎えた)女子と精通した男子が性交すると妊娠する可能性がある



子どもが安心して話せる親になりましょう！



親も正しい知識を！

☆予期せぬ妊娠を避けるために正しい避妊方法を知る。



子宮頸がんについて

☆子宮頸がんはワクチン接種によって予防できること、そして定期検診によって早急な治療ができる。

子宮頸がんはワクチンと定期検診で撲滅できる病気になりつつある。



性についての正しい知識をもつことは命をまもることにつながります

受講者の皆様のご感想を一部ご紹介します

- ★テンポのよいお話でとても楽しく、でも、真剣に聞かせていただきました。娘3人に幸せな未来があるように、大切な性、生を伝えていけたらと思います。
- ★プライベート部分を教えるところから、まずは実践してみたいと思います。日ごろから子どもとのコミュニケーションを大切にしたいと思います。
- ★お互いの気持ちをはっきりと伝える勇気、はっきり断る勇気を学びました。今の時代は、情報量が多い分、正しい情報を今回知ることができてよい時間になりました。
- ★安心して話ができる存在になることが大事なのだなとあらためて感じました。自分を大切に、相手を大切に生きて行ってほしいです。
- ★今後の家庭での性教育に活かそうと思います。「感情を入れず、淡々と正確に伝える」ということ。そのほかにもたくさんの大事なポイントやヒントをいただきました。